

第21回漢方教室（漢方）

漢方でお肌がつるつるーアトピー・肌荒れ・にきびはもうイヤー

I. 漢方による病気の考え方

1 西洋医学と漢方の違い

○西洋医学：原則的に皮膚局所の病気として考える

皮膚以外の疾患による皮膚病変（例）

全身性エリテマトーデス（SLE）：蝶形紅斑

肝硬変：クモ状血管腫

悪性腫瘍：黒色表皮腫 など

○漢方：皮膚病変を局所だけではなく、全身症状と一つとして捉える

扁鵲（へんじやく）：紀元5世紀前後・戦国春秋時代の名医、『倉公列伝』を著す

「病応は大表に現わる（病應見於大表）」

2 漢方のとらえ方

1) 標治法（対症療法） ← 局所に注目

現れた体表部の症状に対して治療を行う方法

・清熱剤、駆瘀血剤、利水剤を用いる機会が多い

2) 本治法（根本治療） ← 全身に注目

皮膚病変を引き起こしている全身のアンバランスを正す方法

体質改善的な意味をもつ

・消化管（裏）に原因があることが多い

・免疫異常が疑われる場合には柴胡剤（柴胡を含む処方）を用いるとよい

★標治法と本治法とのコンビネーションで治療することが多い

II. 皮膚疾患のとらえ方と治療方針

全身の病態（本治法）を考慮しつつ、基本的には皮膚局所の性状（標治法）に着目する

1 漢方的病態（局所）

1) 乾湿

○湿性

滲出液が多い（ジユクジユクしている）、皮下に水疱がある

→ 朮（じゆつ）、茯苓（ぶくりよう）、沢瀉（たくしゃ）、猪苓（ちよれい）、黄耆（おうぎ）など

○乾性

滲出液が少ない、あるいはない（カサカサしている、落屑がある）

→ 地黄（じおう）、当归（とうぎ）、麦門冬（ばくもんどう）、瓜呂根（かるこん）など

2) 陰陽

○陽証

活動は活発で、熱や発赤を伴っている状態

分泌液濃厚、外観が汚い、腫脹している、熱を伴う、悪臭を伴う、結痂を作る

→ 石膏(せつこう)、麻黄(まおう)、黄連(おうれん)、黄芩(おうごん) など

○陰証

不活発で、熱や発赤を伴っていない状態

分泌物が希薄で少ない、外観が汚くない、熱感や腫脹が少ない、単に痒みだけ

→ 附子(ぶし)、乾姜(かんきょう) など

2 分布部位と形状 (局所)

1) 分布部位

頭部：治頭瘡一方[59](ぢずそういっぼう)

手掌：温経湯[106](うんけいとう)

下顎 (Uゾーンのニキビ)：桂枝茯苓丸加薏苡仁[125](けいしぶくりょうがんかよくいじん)

2) 分布形状

アイランド状病変 (健常部位の中に病変部が点在)：十味敗毒湯[6](じゅうみはいどくとう)

びまん病変 (病変部が連続して広がる)：温清飲[57](うんせいいん)、消風散[22](しょうふうさん)

3 便秘 (全身)

便秘で皮膚病変が増悪することがある

一般に皮膚病を治療する場合は、積極的に大黄(だいおう)を併用して便秘しないようにする

大黄(漢方の下剤)には抗菌作用や消炎作用がある

抗菌作用：レイン・アロエエモジン・エモジンなど

消炎作用：リンドレイン・イソリンドレインなど

4 増悪因子・関連因子 (全身)

増悪と軽快を繰り返す皮膚病変は改善する可能性がある

アレルギーによるもの(アトピー性皮膚炎など)は原因物質を除去する

漢方治療では次のような因子が参考になる

1) 月経 (月経周期に一致)

瘀血 (駆瘀血剤) → 桂枝茯苓丸[25](けいしぶくりょうがん)、当帰芍薬散[23](とうきしゃくやくさん)

2) 食事 (過食・食後など)

脾虚・胃腸虚弱 (補脾剤) → 半夏瀉心湯[14](はんげしゃしんとう)、六君子湯[43](りっくんしとう)

3) 寒冷 (冬期・冷房など)

寒証 (温熱剤)

→ 大建中湯[100](だいけんちゅうとう)、当帰四逆加呉茱萸生姜湯[38](とうきしぎやくかごしゅゆしょうきょうとう)、
八味地黄丸[7](はちみじおうがん)、当帰飲子[86](とうきいんし)

4) 温熱 (夏期・暖房・入浴など)

熱証 (清熱剤) → 黄連解毒湯[15](おうれんげどくとう)、白虎加人参湯[34](びゃっこかにんじんとう)

- 5) 疲労（徹夜・夏ばてなど）
気虚（補剤）→ 補中益気湯[41]（ほちゅうえつきとう）、十全大補湯[48]（じゅうぜんたいほうとう）
- 6) ストレス（仕事・人間関係など）
（柴胡剤）→ 柴胡桂枝湯[10]（さいこけいしとう）、柴胡加竜骨牡蛎湯[12]（さいこかりゅうこつばいれいとう）
- 7) 気圧低下（雨天の前日・低気圧の接近）
水毒・水滞（利水剤）→ 五苓散[17]（ごれいさん）、苓桂朮甘湯[39]（りょうけいじゆつかんとう）
- 8) 乾燥（冬に増悪・保湿で改善）
（滋潤剤）→ 当帰飲子[86]（とうきいんし）、麦門冬湯[29]（ばくもんとうとう）

Ⅲ. 治療をする上で一般に知っておくべきこと

- 1) 西洋医学で治療が難しいものは、漢方治療でも難しい
難治性皮膚疾患（アトピー性皮膚炎など）では西洋医学治療が必要な場合も多い
→ ステロイド外用薬、保湿軟膏、抗アレルギー薬など
- 2) 漢方治療に加え、食事内容や生活習慣の改善が必要である
甘いもの、脂っこいもの、スナック類は皮疹を増悪させる
早寝早起きなど、規則正しい生活習慣が重要である
- 3) 増悪因子を見つけて回避する
自分の病気を冷静に分析してみる
- 4) 保湿軟膏は浴室の中で塗る
アトピー性皮膚炎ではワセリンなどの保湿剤で皮膚をコーティングする

Ⅳ. 漢方治療の実際

1 アトピー性皮膚炎、湿疹

1) 小児

①黄耆建中湯[98]（おうおぎけんちゅうとう）

虚証の第一選択／胃腸虚弱

②治頭瘡一方[59]（ちざういっぽう）

実証の第一選択／頭皮に痂皮形成を伴った熱感と発赤のある皮疹

2) 成人

(1) 赤み、かゆみ、熱感

①黄連解毒湯[15]（おうれんげどくとう）

熱を伴う赤み／冷えはない／頑丈な体格

②桂枝加黄耆湯[026]（けいしかおうぎとう）

胃腸虚弱／かゆみが強い／熱感は強くない

黄連解毒湯[15]（おうれんげどくとう）を併用するとかゆみに効果的である

③白虎加人参湯[34]（びやくこかにんじんとう）

ほてり／口渇／激しいかゆみ／黄連解毒湯[15]（おうれんげどくとう）を併用することが多い

④越婢加朮湯[28] (えっぴかじゅつとう)

急性期／炎症が強い／浸出液が多い／苔癬化

(2)カサカサ

①四物湯[71] (しもつとう)

四物湯[71] (しもつとう) を含む処方を用いることが多い

十全大補湯[48] (じゅうぜんたいほとう)

身体が疲弊している／慢性化して体力が低下

温清飲[57] (うんせいいん)

赤みと熱感があってカサカサしている

長期に及ぶもので体質改善を狙う場合、温清飲[57] (うんせいいん) を含む処方を考える

荊芥連翹湯[50] (けいがいれんぎょうとう)

色素沈着が目立つ

柴胡清肝湯[80] (さいこせいかんとう)

虚弱な小児

②当帰飲子[86] (とうきいんし)

皮膚病変は目立たず／乾燥して痒痒感が強い

(3)ジユクジユク

①消風散[22] (しょうふうさん)

汚いかさぶたを作る／炎症が強い

(4)その他

a)皮膚アレルギー

①十味敗毒湯[6] (じゅうみはいどくとう)

虫さされで腫れやすい／下着の当たる部位が悪化／皮疹はアイランド状に分布

b)日光過敏

①温清飲[57] (うんせいいん)

②麻黄附子細辛湯[127] (まおうぶしさいしんとう)

c)色素沈着

①荊芥連翹湯[50] (けいがいれんぎょうとう)

皮膚が浅黒くて乾燥している／色素沈着／炎症は強くない

慢性化したものに長期間服用させる

d)浮腫・皮下水疱

①猪苓湯[40] (ちよれいとう)

②五苓散[17] (ごれいさん)

③茵陳五苓散[117] (いんちんごれいさん)

e)胃腸虚弱

①黄耆建中湯[98] (おうぎけんちゅうとう)

痩せた体格／腹痛などの胃腸虚弱が目立つ

②六君子湯[43] (りっくんしとう)

胃腸虚弱の基本処方／食欲低下／胃もたれ／胃下垂

f) 疲労倦怠・体力消耗

①十全大補湯[48] (じゅうぜんたいほとう)

アトピー性皮膚炎が悪化してひと皮剥けたような状態
皮膚炎が長期化して気力や体力が低下した状態

②帰耆建中湯[エキス剤にはない] (きぎけんちゅうとう)

胃腸虚弱が目立つもの／十全大補湯[48] (じゅうぜんたいほとう) で胃腸障害を起こす
当帰建中湯[123] (とうきけんちゅうとう) と黄耆建中湯[98] (おうぎけんちゅうとう) を併用する

g) 精神症状

①抑肝散[54] (よくかんさん)

イライラ感／神経過敏／攻撃的性格／不眠／歯ぎしり／顔面痙攣 (チック)

(5) 注意すべき病態

①当帰四逆加呉茱萸生姜湯[38] (とうきしぎゃくかごしゅじょうきやうとう)

局所は赤く火照っている／次のような場合は「真寒假熱 (しんかんかねつ)」を疑う
底冷えを感じる／寒がり／鼻の周囲だけが白っぽい

→ 黄連 (おうれん) や石膏 (せこう) で冷やしてしまうとかえって病態が悪化する

2 尋常性座瘡 (ニキビ)

局所の性状、増悪因子に着目すると治療がうまくいくことが多い
便秘は適宜改善しておく必要がある

1) 生活指導・外用剤

- (1) よく石鹸で洗う
- (2) 硫黄の入ったローションを用いる
- (3) 食事は甘いもの、脂っこいものを避ける
- (4) 毛孔の閉塞は圧出して皮脂を出す
- (5) 化粧・髪型に注意する

2) よく用いる処方

①桂枝茯苓丸加薏苡仁[125] (けいしぶくりょうがんかよくいじん)

比較的体格のよい女性で、月経周期に一致して増悪するニキビ
ニキビは赤黒くて下顎部を中心 (Uゾーン) に生じる傾向がある

②当帰芍薬散[23] (とうきしゃくやくさん)

虚弱体質で顔色が悪い女性のニキビ
赤みも化膿傾向もないいわゆる白ニキビで、前額部を中心に多発する
薏苡仁 (ハトムギ) を加えて用いることが多い

③清上防風湯[62] (せいじょうぼうふうとう)

ニキビは赤くて化膿傾向が強く、顔面はのぼせ傾向がある

④芍薬甘草湯[68] (しゃくやくかんぞうとう)

男性ホルモンの分泌を抑え、脂性の皮膚を改善する

3) その他の処方

- ①十味敗毒湯[6] (じゅうみはいどくとう)
虫さされで腫れやすいなど／皮膚アレルギー反応が強い
- ②荊芥連翹湯[50] (けいがいれんぎょうとう)
皮膚が浅黒くて乾燥
- ③排膿散及湯[122] (はいのうさんきゅうとう)
化膿傾向が強い
- ④半夏瀉心湯[14] (はんげしゃしんとう)
過食でニキビが悪化するなど、食事が増悪因子
- ⑤黃連解毒湯[15] (おうれんげどくとう)
顔面紅潮／熱感や圧痛を伴う
- ⑥桃核承気湯[61] (とうかくじょうきとう)
月経に一致して増悪／便秘を伴う

3 蕁麻疹 (じんましん)

蕁麻疹は漢方的にみると、紅斑を伴った水毒（膨疹は水毒）であるしたがって、治療は利尿剤と清熱剤が基本となる

1) よく用いる処方

- ①茵陳蒿湯[135] (いんちんこうとう)
蕁麻疹全般に多用／体に熱がこもるような感じ／便秘
- ②茵陳五苓散[117] (いんちんごれいさん)
原因が不明の蕁麻疹にはまず使用してみる
- ③十味敗毒湯[6] (じゅうみはいどくとう)
大きい蕁麻疹が全身の所々に出る (island 状)

2) その他の処方

- ①香蘇散[70] (こうそさん)
魚毒による蕁麻疹
- ②桂枝茯苓丸[25] (けいしぶくりょうがん)
月経前に増悪／夕方から夜間に増悪
- ③麻黄附子細辛湯[127] (まおうぶしさいしんとう)
寒冷蕁麻疹
- ④葛根湯[1] (かっこんとう)
急性期の蕁麻疹／局所の緊張と発赤／痒痒が強い

4 脱毛症

円形脱毛症は心身症である

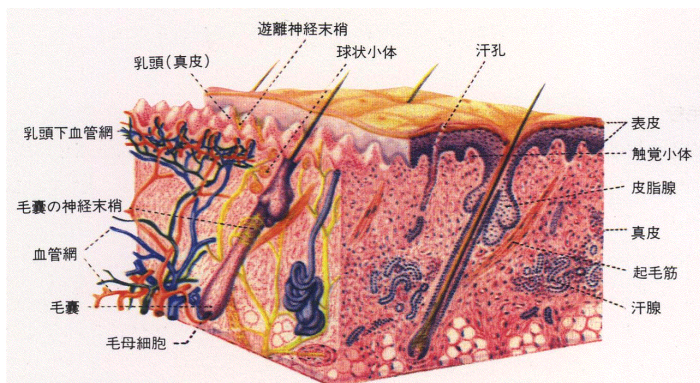
3 cm以内の円形脱毛症は自然経過で軽快することが多い

全脱毛は治療に長期間を要する

頭皮がむくんでいる場合は利尿剤（五苓散）を先行して用いる

鍼灸治療を併用すると効果的な場合がある

1) 皮膚の構造



二宮文乃「皮膚疾患 漢方治療マニュアル」より転載

- 毛髪寿命 男性 3~5年
女性 4~6年
- 頭髪の本数 約10万本
- 自然脱落数 50~90本/日

2) 竜骨・牡蛎を含む処方と駆瘀血剤のコンビネーション (竜骨牡蛎を含む処方)

柴胡加竜骨牡蛎湯[12] (さいこかりゅうこつぼれいとう)

交感神経過敏症状 (動悸/易驚性/不眠など)

桂枝加竜骨牡蛎湯[26] (けいしかりゅうこつぼれいとう)

柴胡加竜骨牡蛎湯的/虚弱体質

(駆瘀血剤 (くおけつざい))

桂枝茯苓丸[25] (けいしぶくりょうがん)

がっしりした体格

当归芍薬散[23] (とうきしゃくやくさん)

虚弱体質

桃核承気湯[61] (とうかくじょうきとう)

がっしりした体格/便秘

→ 以上の2種類を組み合わせ、長期間服用する

3) その他の処方

①加味逍遙散[24] (かみしょうようさん)

虚弱/疲れやすい/ホットフラッシュ/肩こり/冷え性/更年期障害

②抑肝散[54] (よくかんさん)

怒りっぽい/不眠/興奮しやすい

③五苓散[17] (ごれいさん)

頭皮のむくみ (ブヨブヨ)

④六味丸[87] (ろくみがん)

排尿障害/腰痛/手足のほてり